

通し番号	5016
------	------

分類番号	R02-1A-12-01
------	--------------

水稻中生品種‘てんこもり’の特性を明らかにしました

[要約] 水稻中生品種‘てんこもり’は、これまでの県奨励品種‘さとじまん’と比較して、出穂期及び成熟期は4年間で同程度から5日程度早く、耐倒伏性が強く、良食味である。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

県内の水稻中生品種は、2005（平成17）年に‘さとじまん’を県奨励品種に決定して以降、新たな品種は導入されていない。そこで、良食味で、夏場の猛暑等でも品質が低下しない有望な品種を選定するため、奨励品種等決定調査を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 ‘てんこもり’の特徴は、長所として収量性、食味、品質、穂発芽性など、短所として中生品種の中では、成熟期がやや早い。
- 2 形態的特性は、稈長は‘さとじまん’と同程度から長く、穂長は‘さとじまん’より若干短い。穂数は‘さとじまん’より多く、草型は偏穂数型に属する（表1）。
- 3 生態的特性は、出穂期および成熟期は、‘さとじまん’と比較して4年間で同程度から5日程度早く、中生のうるち種である。耐倒伏性は‘さとじまん’並みであり、多肥条件においても倒伏しない（表2）。
- 4 玄米品質・食味の特徴は、玄米の形状は中、玄米千粒重は‘さとじまん’より若干低い。粒色は中飴で、光沢は良く、玄米外観品質は中の上で‘さとじまん’よりも優れる（表3）。食味は、官能試験等により‘さとじまん’と比べて高く、蛋白質含量率は低い。

以上のことから、総合評価で‘さとじまん’よりも優れる。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘てんこもり’の栽培ごよみの作成に活用する。
- 2 ‘さとじまん’に代わる中生の水稻奨励品種として、作付けを拡大する。

[具体的データ]

表1 品種特性 (2017(平成29)～2020(令和2)年)

品種名	稈		芒		ふ先色	着粒 密度	脱粒性	玄米		
	剛軟	細太	多少	長短				形状	粒色	光沢
てんこもり	中	中	少	短	黄	中	難	中	中飴	良
さとじまん	中	中	少	短	黄	中	難	中	中飴	良

表2 生育調査結果 (2017(平成29)～2020(令和2)年)

移植期	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	穂い もち	白葉 枯病	紋枯 病	縞葉 枯病
6月	てんこもり	8.15	9.24	80.7	20.0	403	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
月上旬	さとじまん	8.16	9.26	81.0	21.0	350	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

注) 倒伏程度および病害の評価:0(無)～5(甚)、病害の評価は2020(令和2)年の成績

表3 収量及び品質調査結果 (2017(平成29)～2020(令和2)年)

移植期	品種名	藁重 (kg/a)	精籾重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	同左率 (%)	屑米重 (kg/a)	玄米千 粒重(g)	玄米 品質
6月上旬	てんこもり	68.8	70.4	51.2	99	3.1	21.2	4.5
	さとじまん	80.1	70.8	51.3	100	4.6	22.2	5.0

注) 玄米外観品質:1(上の上)～9(下の下)



図1 稈、穂、玄米の外観比較

いずれも左から‘はるみ’、‘てんこもり’、‘さとじまん’

- [資料名] 令和2年度試験研究成績書(普通作)
- [研究課題名] 水稻奨励品種決定調査事業
- [研究期間] 2017(平成29)～2020(令和2)年度
- [研究者担当名] 岡野英明、木村仁美、三好理、瀧口武、藤代岳雄
- [協力・分担関係] 普及指導部